

令和3年度 長野市観光振興審議会 会議録

日 時 令和3年10月1日（金） 午後10時から午前11時30分まで
場 所 庁議室（第一庁舎5階）
出席者 委員（14人中13人出席）
事務局10人
観光振興計画進捗管理SCOP1人（次期観光振興計画策定業務受託者）
ながの観光コンベンションビューロー1人
信州松代観光協会1人

1 開 会

2 商工観光部長挨拶

新型コロナウイルスに関しては、本当に大きな影響が出ており、全国の感染拡大に伴い、本市でも観光に大きな打撃を受けている。昨年度の観光入込客数448万人、例年の半分以下になっている中、本年も引き続き厳しい状況である。インバウンドが全く無いことに加え、県を跨いだ人流の抑制が続いており、国内旅行、コンベンション、またビジネスも止まっているため、非常に大きく落ち込んでいる状況である。そんな中、市とて国・県と連携し経済対策など事業者支援に取り組んでいる。

ワクチン接種が進み、全国的に感染が抑制されてきており、少し明るい兆しも見えているため、来年度の善光寺の御開帳に向け準備をすすめ、年末には恒例となった表参道イルミネーションを実施し、気持ちが明るく前向きになるきっかけとしたい。

また来年3月には、セントラルスクウェアでフードフェスの開催、松代の回向柱曳航に関連し、松代城跡のライトアップも予定している。また御開帳や今後のインバウンドを見据え、スマートフォンを使い日本語を含む4ヶ国語で、観光ガイドができる「町なかオンラインガイド」を、今年度整備していく計画がある。ウィズコロナの中、非接触型観光に対応した受け入れ体制を構築したい。

本日の審議会では、次期観光振興計画の策定につき説明をする。時代に対応した観光施策が進められるよう、委員の皆様のそれぞれ専門の立場から忌憚のないご意見を頂戴したい。

3 会長挨拶

本日は、令和3年度第1回長野市観光振興審議会の開催にあたり、大変お忙しい中、委員の皆様のご出席をいただき、ありがとうございます。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症により、本市の観光産業は大きな影響を受けております。今なお先行きの見えない不安が社会全体に影響を落としておりますが、

早期の終息を願い、1日も早い経済の回復を期待してまいりたいと思います。現在の「長野市観光振興計画」の計画期間は、平成29年度から令和3年度までの5年間となり、本年度は、最後の年に入っております。本日は、令和4年度からの次期観光振興計画の策定につきまして、それぞれ専門のお立場から、忌憚のないご意見をいただければと思っています。なお、新型コロナウイルス感染対策のため、11時30分には、会議を終了したいと思いますのでお願いいたします。

委員の皆様のご協力のもと、観光を通じて長野市の活性化が図られるよう、努めて参りたいと思います。宜しく申し上げます。

4 新任審議会委員の紹介

ながの観光コンベンションビューローの鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

5 議事（議長：笠原会長）

(1) 次期観光振興計画の策定について

資料1 長野市観光振興計画 概要版 令和4年度—令和8年度（素々案）

資料2 長野市観光振興計画 令和4年度—令和8年度（素々案）

により事務局から説明

【質疑応答】

A委員：当然長野市の観光振興計画だが、広域連携が弱い。観光客は広域で動く。松本や軽井沢あたりとうまく連携しながら誘客を勧める必要がある。もうひとつは地区別の方針で地域の観光資源を生かすという点。気になるのは中山間地域には、合併時に抱えた観光施設がある。これをどうやって有効活用して誘客に繋げるか、観光振興課としての計画を示して欲しい。

事務局：「広域連携による効果的な観光情報の発信／プロモーション」とある。広域連携は今当たり前のように取り組んでいる。直近では来年度の諏訪大社の関係。御開帳と御柱のお客様をいかに周遊するかという形で交通手段につなげようと情報発信を諏訪市や下諏訪町と既に連携している。

中山間地域の施設は、今、コロナ渦であること、また交通事情の不便もあり、なかなかお客様を収容できない状況。ただ、あるものをしっかり活かしていくという視点の中で、やきもち家やさぎり荘など市所管施設について、周遊することをしっかり考えていきたい。取組としては、なかなか売上が厳しい3つの道の駅を周遊するスタンプラリーを今年度中に予定している。大岡のパノラマホテルやさぎり荘の宿泊券が当たるような企画で、ながの観光コンベンションビューローと一緒に考えている。

A委員：広域連携については成果指標に大きく影響する。しっかりと根拠を出すためにも協議しながら進めると良い数字が出ると期待する。施設は観光振興課だけの問題でも無い。市に施設再編を強く要望し、できるだけ残すという方針を示して欲しい。使い方次第である。

議長：石川県は金沢駅を降りるとお殿様の視点か全県をアピールしている、これも連携。外国人は飯山も野沢も白馬もすべて同じところにあると思っている。そういう意味でも連携は重要である。

B委員：素々案についてはよくまとめられており、豊かな表現で申し分はない。その中、気づいた3点。まずZ世代など若者の観光需要の喚起とあるが、あまり世代に囚われなくてもよいのではないか。団体旅行が少なくなり、家族旅行に特化した傾向が出てきている。家族旅行をした思い出は誰でもある。世代を超えて自分が子供を持ち、両親と出掛けた所を見せたい、また両親を連れて行きたいというスパイラル。やはりリピーターが力となる、その視点に立ち切り口を考えるのも重要。Z世代にターゲットを絞るよりも、家族旅行をサポートすることにより、必然的にZ世代もしくはジェネレーションαの心に残る観光地となる。そこを大切にしたい。

次にオリンピックレガシー等を最大限生かすコンベンション誘致について。いわゆるオリンピック施設をレガシーと呼ぶだけでなく、今現在、全中のスケート大会を、長野県で20年連続開催をしていることが全国的に話題になっていることに注目する。野球は甲子園、バレーボールやバスケットは代々木第2体育館、吹奏楽は普門館を目指している。同じようにスケートは「目指せ！エムウェーブ」と考え、聖地の創造作業というところまで、意識をしたい。大会があれば大体10日ぐらい前からそこに拠点を張って最後の調整をして臨むことを考えると、単なるレガシーの活用だけでなく、たくさんの団体の誘致していくことが大切になる。

最後に観光振興課が観光資源の開発や拠点開発についてかなりは尽力をされている飯綱地区。大座法師池を中心とするレジャーランドのイメージになるが、なぜ呼称を飯綱・戸隠地区としないか不思議である。飯綱は日帰り、戸隠は連泊を意識した、どちらもリゾート地であり伝統的な歴史のある観光地戸隠と5kmしか離れていないのに一体感も含め何故か聞いてみたい。

事務局：まずZ世代をターゲットにした上で、ご指摘の家族旅行という視点も今後考えたい。非常に貴重な意見である。

次に重点施策でもあるコンベンションとレガシー、それが象徴となるプレミア的な価値をもっと高めたらとの提案について、検討していきたい。

最後に飯綱、令和元年度飯綱スキー場を廃止し、現在サウンディングで、スキー場の跡地利用について色々な企業から提案を受けている。飯綱繋がり飯綱町の飯綱東高原と連携を検討している。前回の観光振興計画の重点地域を継承し、4月に「森の駅 Daizahoushi (ダイザハウシ)」もオープンする。飯綱をより集客ができる場所にしたい。その上で戸隠と飯綱をひとくりにすべきかとの議論もしっかり検討していきたい。

C委員：松代地区も同じである。すぐ近くにある川中島古戦場は全国区と言われるほどの知名度で、典厩寺や山本勘助の墓があり、戦国時代に関連した海津城が松代にある。古戦場から松代へ足を延ばし、さらには小布施へとも考えられる。松代地区というと松代の中だけで小さく完結してしまうのではないか。もうひとつは、オリンピック遺産と言われる施設、このオリンピック開催地として世界に発信できる施設の多くを地元の子供たちが知らない。長野県の一校一団運動の実績を活用し、世界的な大会開催時、子供たちが無料で観戦できる制度があれば、教育としてもよい。さらに善光寺と長野県立美術館の中間に足を運ばせる施設が必要でないか。一つの案として県庁所在地である長野市が県内の郷土芸能を定期的に行うことが賑わいに貢献できると思われる。

事務局：企画展示が終わったばかりだが「THE EXPO 善光寺 2021」という催しを行った。教育委員会と博物館、さらに上越市、甲府市と連携して川中島古戦場を全国にPRし、来年の善光寺御開帳に弾みをつけたいという趣旨で開催した。博物館では川中島古戦場に因んだ特別な展示、古戦場の歴史を巡るスタンプラリーは好評で今も実施中。その中で妻女山や松代城にも足を伸ばす企画もある。古戦場公園の入り口にのぼり旗の設置や一騎打ち像の設えも新しくしたなど、川中島古戦場ファンに向け、松代との周遊に向け継続して取り組んでいる。

オリンピック関連については、観光振興課だけではなく、多岐にわたる部分の提案である。大会運営はコンベンションとなり、大きな学会、大きなスポーツ事業、コンサートは事業者がエムウェーブやビッグハットを借りていただくので無料は難しい。オリンピックレガシーを今の子供たちに伝えていくことは、重要な視点なので多方面に相談し考えていきたい。

D委員：コミュニケーションを通じたファンづくりということで、コンシェルジュの育成、周遊促進に向けたファンづくりとある。一番観光客と直で触れ合うのはお店の方達、実際観光客向けでないお店も含まれる。そこで観光客が満足する案内ができていないのも実情。たとえば民間の人材の育成や店舗向けの啓発活動をし、官と民が一体化でして観光を盛り上げる雰囲気調整できると振興計画も、地元の方に浸透するの

ではないかと思う。

事務局：町なかのニーズ、生の声は参考になる。今は観光客向けの店に行かないことが主流な部分もある。インバウンド向けの研修会の計画があるが、日本人向けの内容も研修が必要になるかもしれない。ながの観光コンベンションビューローで研修は実施している。

NCVB：商店の方対象など実施している。コロナ前はインバウンド対応をテーマに商店会連合会と連携し、セミナー開催していた。コロナの関係で今は実施していないが、次年度以降、意見を参考に年度によりテーマを決めて展開したいと考える。

事務局：行政が企画する研修会でなく、一番身近な方からの要望であることに開催の意義があると思う。こういう視点で、意見があれば、この計画に限らず、その都度提案いただきたい。研修のための研修ではなく、皆さんのやる気で本当に身になるものを開催したい。

議長：本当に良い意見。官が先頭に立って民がついていかないのは最高の悲劇だが、よくあること。民間が引っ張って、行政が後押しする。同じベクトルに向かわないと大変である。

E委員：オリンピックレガシーの関係。ここでだれだれの金メダルを獲った場所と見にくるだけでもったいない。あの場所に行けば、ローラースケートで滑るなど疑似体験ができるというアピールはどうか。

事務局：具体的な提案である。可能かも含め各施設と調整してみたい。体験があれば先程の家族旅行のように心に残り、次に繋がる。

議長：疑似体験と言えば、善光寺でお参りする時、僧侶の恰好をしては。京都に行くと着物で歩いたりしているように、一式レンタルで僧侶になって参拝はどうか。

F委員：女性目線というか違う視点から2点申し上げたい。地域資源を最大限活かした誘客の中の「旅マエ・旅ナカ・旅アト」という言葉が素敵である。これは一般的なのか、長野市のオリジナルなのか。旅はその時だけでなく、地図を広げて計画をして、旅に出て、帰ってきて写真を見ることで出来上がる。本当に素敵なキャッチーな言葉だと感心する。

事務局：インターネットで見て引用したが、それほど使われていない。旅は行く前からワクワクし、来て良さを実感し、その後も例えば宿から手紙が届く、それで再び訪れると、ずっと繋がる関係性ができ上がる。旅を捉えた心を打つ素敵な言葉と感じている。

F 委員：団体旅行が減り、家族旅行が増えている。それに加えおひとり様が多い。宿をしているが例えば 20 人のお客さんのうち、7~8 人がおひとり様である。ツーリングや SNS の発信など 1 人でも実に楽しんでいる。その方達向け、おひとりさまも楽しんで旅行ができるツールがあればいいと思う。

事務局：観光振興計画の中、作業部会と戸隠観光協会が協力して「戸隠神社で早朝のお掃除体験&正式参拝」を実施している。先程疑似体験の話もあったが、神主体験で白い作業衣を借り、早朝社殿の中と外をお掃除し、お祓いを受けて正式参拝をする個人向けコンテンツがある。戸隠の朝の霧の中、なかなかできない神秘的な体験で心が洗われると評判がいい。

G 委員：今コロナの時代、何が以前と一番違うのか。今後に向けて、長野市の観光計画はどこが一番のポイントなのかと考える。新しい時代に向けて次が大事になるのは何か知りたい。どうしても観光業中心に考えるが、旅で出会うのは一般の方が多い。地域に誇りをもって暮らしている方が大勢いれば、どんな方が訪れても迎えられる。長野市民として一番自分達が地域を好きにならなければいけないという点を長野市がどう考え、どうするのか知りたい。

事務局：コロナや台風をはじめ誰もが想定しなかったことが起きる時代になっている。そこで持続可能な柔軟な対応が非常に重要だと認識している。それは観光事業者が行う部分、我々行政が担う部分とニーズにより変化も必要。潮流をしっかり受け止め、時代時代にあった観光客にも市民にも適した計画をつくって行きたい。

真田丸の時の話になるが、多くのお客様が来ることで地域も潤うし、松代も栄える、これはいいことだと感じていた。しかし、地元の方は結果的に 1 年間も日常生活を奪われていたことを知った。ただ、生活を規制された方も松代にはこんな宝がある、今不便もあるが自分の町の良さが伝わるなら協力できると思える市民を増やす、この視点が観光振興課の役目として重要だと思う。

受入れる側も来る方も、本当にお互いに手を取り合って進めていくのが、これからの観光のスタイルになる。「住んでよし、訪れてよし」そんな地域が今後選ばれて残っていく。旅マエ・旅ナカ・旅アトと最後までしっかりケアしてまた長野市を選んでいただく、そういった観光地にしたい。

議 長：小布施は一般の民家がお庭をどうぞ見てくださいと、これはベクトルが同じということ。難しいことだが、そういう気持ちのある町であり観光地であるといい。

H 委員：信州松代観光協会が設立されて3年、来年は御開帳と真田信之が松代に入府されて400年に当たる年でもあるので活発に動きたい。真田丸の放映時は松代だけで120万人が訪れた。一昨年は水害、去年のコロナの影響で観光客は30万人に減っている。そんな中、松代に来たらこれというものがあるといい。泉水路を活かした展開、飲食店の雰囲気づくりと小さな気を配りが観光促進になるように精進したい。

事務局：飲食店は大事である。松代にある大室の古墳は観光地としては素晴らしいが、食べる場所が無いと人は来ないと指摘されたことがある。先程の小布施の話もしっかり、もてなす心が染みついているところが強い。長野も門前町、これからに期待したい。

I 委員：主流であるデジタルでの顧客データベースの管理をどのようにするかが課題である。具体例だが名前を漢字、ひらがな、カタカナ半角全角と登録だけでも難しい。しかしリピーターがこの先の観光には重要という点では避けられない問題ではないか。

事務局：データ収集が課題だと認識している。ながの観光コンベンションビューローの「ながのファンクラブ」は5,000人の登録がある。その都度、市の企画やイベント、事業を通じ市民のみならず、観光客にもQRコードから登録を促しファンを増やすこともできる。それが先程の旅マエ・旅ナカ・旅アトのタイミングで情報提供するとリピーター確保にも繋がる。今あるデータを有効活用するシステムを着実に構築していきたい。

～ 事務局説明資料の内容のとおり、進めていくことが了承された。～

6 その他

事務局：第2回 長野市観光振興審議会の予定ですが、11月9日（火）午後3時15分から予定しております。場所はおって通知でお知らせしたいと思います。

7 閉 会